※令和４年度以降入学生用

学校番号	3033

令和５年度　国語科

教科	国語	科目	言語文化	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	「精選　言語文化」（三省堂）						
副教材等	「読解をたいせつにする　体系古典文法　九訂版」（数研出版）など						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

【なぜ言語文化を学ぶのか】

言語文化の授業では、古文、漢文、そして近代以降の小説などの文学的文章を扱います。ここで皆さんに質問です。なぜ古文や漢文、小説や詩などを学ぶと思いますか。

これらを学んでも将来何の役にも立たない、なぜ学ぶのか分からないと思う人も多いのではないでしょうか。確かに、将来直接役に立つものではないかもしれません。しかし、人生は役に立つものだけでできているのでしょうか。そもそも、もし本当に古文や漢文が必要ないなら現代にまで残ることはなかったでしょうし、もし本当に小説が無価値なものならば新しい作品が生まれてくることもないでしょう。

人と人のつながりの間には言葉があります。自分とは異なる考え方、異なる価値観、異なる背景を持った他者との間をつないでくれるのが言葉です。そして、多様な考え方を持つ人々がつながり、様々な文化を生み出してきました。

ですから、私たちが言語文化を学ぶ理由の１つは、異なる他者に寄り添い、理解することを通して、人とのつながり方を学ぶためだといえます。みなさんにはぜひ、自分とは異なる他者に寄り添い、理解できる人間になってもらいたいと思っています。

【学習方法】

・学習とは、分からない・できないことを、分かる・できるようにすることです。そのためには、自分が今どこまで分かっていて、どこから分かっていないのかを自覚する必要があります。授業中はもちろん、予習や復習の中で自分の今の理解度を把握するとよいでしょう。
・できないことができるようになるにはどうすればいいのかについては、人によって適する方法が異なります。ですから様々な方法を試して、自分に適した学習方法の確立を目指すとよいでしょう。
・単語や文法などの基本的な知識を習得するには反復が必要不可欠です。毎日５分でも１０分でもかまわないので、何度も繰り返し学習するとよいでしょう。
・文章を読む能力を向上させるには、「読み方を説明できるようにすること」と「たくさん読むこと」の両方が必要です。授業では読み方を説明できるようにする取り組みを中心に行いますので、たくさん読むことは自分で計画を立てて行うとよいでしょう。
・知識を習得するにも、読み方を身に付けるにも、古文や漢文に慣れるにも、音読が効果的です。家で予習や復習をする際にも音読を取り入れるとよいでしょう。

２　学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

・目的や場に応じて的確に文章の内容や構成、登場人物の心情を理解することができるようにする。
・言語感覚を磨き、論理的な思考力、豊かな想像力を場面に応じて活用することができるようにする。
・人間関係において、互いを尊重し、相互理解を深め、正しく意思を伝え合うことができるようにする。また、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
・伝統的な言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重する態度を育む。

※令和４年度以降入学生用

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

４　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
1学期	①古文の言葉やきまりについて基本的な事項を学ぶ ②説話に描かれた人物の言動や心情を読み取る ［教材］ 『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」 「絵仏師良秀」	a：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 b[読]：文章の内容について叙述を的確に捉えるとともに、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 c：進んで文語のきまりについて理解し、自分のものの見方を深め、学習課題にそって作品の内容について批評しようとしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
	漢文の訓読のきまりについて基本的な事項を学ぶ ［教材］ 漢文の世界へ 漢文の基本構造の訓読	a：漢文の世界に親しむために、基本的な訓読のきまりについて理解することができる。 b[読]：文章の内容について叙述を的確に捉えるとともに、現代の日本語や古文との比較を通して漢文の特徴を理解することができる。 c：進んで我が国の文化と外国の文化との関係について理解し、自分のものの考え方を深め、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
	①物語の読解の基本を学ぶ。 ②作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解する。 ③小説とその典拠になった説話を読み比べ、小説の読みを深める。 ［教材］ 「羅生門」 『今昔物語集』 「羅城門登上層見死人盗人語第十八」	a：文章の意味が文脈の中で形成されることを理解している。また、我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにしている。 b[読]：文章の内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えるとともに、他の作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 c：文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて粘り強く捉	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

		え、学習課題にそって異なる時代に成立した小説を比較し論じようとしている。			
	他者を説得する文章の特徴を理解し、自分で寓話を書く。 ［教材］ 『戦国策』 「漁夫之利」 「借虎威」 『列子』 「朝三暮四」	a：漢文の基本的な訓読のきまりを踏まえて文章の内容を把握したうえで、寓話における表現の特徴とその効果について理解している。 b[書]： 自分の主張が効果的に伝わるよう、文章の展開や文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。 c： 積極的に古典の理解を深めようとしているとともに、自分の主張が伝わるようにあらゆる工夫をしてよりよいものにしようとしている。	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
	古文で書かれた物語の設定を理解し、登場人物のおかれた状況や心情を読み取る。 ［教材］ 『竹取物語』 『伊勢物語』芥川	a：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 b[読]：文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 c：進んで作品の内容や展開について的確に捉えようとしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
2学期	詩の表現について考え、お互いの解釈の比較を通して詩の読み方を考える ［教材］ 「サーカス」 「シジミ」 「I was born」	a：詩に特徴的な表現とその効果について理解することができる。 b[読]：作品の内容や解釈を踏まえ、他者の意見と比較することで、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 c：積極的に他者の意見を理解しようとするとともに、作者の意図を汲み取ったうえで自分の考えにいかそうとしている。	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
	①随筆に描かれた筆者の心情を読み取る ②作品が書かれた当時のものの見方や考え方についての理解を深める ［教材］ 『枕草子』 「春はあけぼの」 「ありがたきもの」 『徒然草』 「神無月のころ」 「家居のつきづきしく」	a：古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解するとともに、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 b[読]：文章の内容について叙述を基に的確に捉え、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を理解し、内容を解釈している。 c：進んで作品の文化的背景を理解し、文章に表れているものの見方を捉えて内容を解釈し、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
	①史話に描かれた人物の言動や心情を読み取る ②史話が現在まで読み継がれてきた意義を考える	a：漢文の基本的な訓読のきまりを踏まえて文章の内容を把握しているとともに、古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	［教材］ 『史記』 「鶏鳴狗盗」 『十八史略』 「臥薪嘗胆」	b[読]：文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。また、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 c：進んで作品の歴史的背景等を理解し、内容や展開などについて的確に捉え、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。			
	①作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解する ②物語と現実との関係に注目して、作品世界について考える ［教材］ 「夢十夜」第一夜、第六夜	a：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。また、常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 b[読]：作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 c：文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、文章の構成や展開について積極的に評価し、学習課題にそって作品の内容について討論しようとしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
	①日記を読み、それぞれの場面に描かれた作者の心情を理解する ②和歌の解釈を通して、作品の中で和歌が果たす役割について考える ［教材］ 『土佐日記』 「門出」「忘れ貝」「帰京」	a：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。また、我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにしている。 b[読]：内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えているとともに、作品の中で和歌が果たす役割について理解を深めている。 c：作品の文化的背景を理解したうえで内容の解釈を深め、作品の内容や表現について積極的に批評しようとしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
3学期	①漢詩に描かれた情景や心情を読み取る ②漢詩の特徴や技法について理解する ③日本の言語文化における漢詩の意義について考える ［教材］ 「春暁」「春望」「聞蝉感懐」 「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」「静夜思」 「送元二使安西」「題自画」	a：漢文の世界に親しむために、漢文を読むために必要な訓読のきまりや、漢詩の特徴や技法について理解している。 b[読]：作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 c：言葉には文化の創造を支える働きがあることを進んで理解し、作品に現れているものの感じ方を積極的に捉えて内容を解釈し、学習課題にそって作品を比較して論じようとしている。	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート
	①作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解する ②自分の解釈を他人に伝わるような書き方を用いて文章にする ［教材］ 「待ち伏せ」	a：文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。また、常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 b[書]：自分の解釈が的確に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。 c：言葉には文化の継承を支える働きがあることを進んで理解し、作品や文章の成立した背景を踏まえて内容の解釈を粘り強く深め、自分の解釈が伝わるようにあらゆる工夫をしてよりよいものにしようとしている。	ワークシート 定期考査	ワークシート	ワークシート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	①軍記に描かれた人物の言動や心情を読み取る ②中世の言葉遣いや語りの特徴について理解する ［教材］ 『平家物語』 「木曾の最期」	a：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 b[読]：文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 c：文章の意味は文脈の中で形成されることを進んで理解し、文章の内容を的確に捉え、作品の内容について積極的に評価しようとしている。	ワークシート 定期考査 小テスト	ワークシート 定期考査	ワークシート 振り返りシート

※表中の観点について　a：知識・技能　b：思考・判断・表現　c：主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[ｂ]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　――　）時間

・書くこと　…　（　１０　）時間

・読むこと　…　（　９５　）時間